

令和5年度 広島県立農業技術大学校評価シート(関係者評価)

評価基準(達成度)

A	90%以上の達成
B	75～89%の達成
C	60～74%の達成
D	45～59%の達成
E	45%未満の達成

重点目標	1 定員の確保 4 カリキュラムの改善	2 進路指導の充実 5 職員のスキルアップ	3 学生の学力・資質の向上
------	------------------------	--------------------------	---------------

課題番号	課題	現状	評価項目	具体的方策	評価指標及び目標値	成果・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	関係者評価委員意見
1	定員の確保	・定員の充足率は、専修学校化以前(H17～H21 平均 定員 50 名/1 学年)は 42%。 専修学校化後(直近 10 年 H26～R05 平均 定員 40 名/1 学年)は 66.5%となっている。 ・近年の入学者数 R01 29 名 R02 28 名 R03 27 名 R04 18 名 R05 25 名 ・農業高校からの進学者は 44.7%(R01～R05)。 R01 41% R02 43% R03 41% R04 50% R05 40% R01～R05 は実数で 11 名/年。	農業高校との連携	1 県内の農業高校6校との連携した取組について農業教育連絡協議会で協議する。それぞれの高校単独での体験学習を提案、実施する。	1 農大の理解度向上 ・農業連絡協議会 WG 会議で提案、実施校 2 校	1 農大の理解度向上 ・県農業教育連絡協議会 WG 会議(6/29)において、各高校の希望があれば体験学習や研修を受け入れることを説明した。 実施校 1校(油木高校1年 31 名)	D	引き続き、高校単独での体験学習を提案し、実施を促す。	高校教諭にまず農大を知ってもらうために、教員研修の中に農大紹介を取り入れるなど教育委員会に提案してはどうか。
				2 農業高校との授業交流により大学の認知度を向上する。	2 参加校、参加回数の向上 【農業高校→農大】 ・卒業論文公開発表会 参加農業高校 3 校	2 参加校、参加回数の向上 ・参加農業高校 5 校 (庄原実業 17、西条農業 4、油木 8、吉田 3、世羅教諭のみ)	A	今後とも、農業高校の先生との交流を図ることにより、卒業論文公開発表会への参加を促す。	
			高校訪問	3 県内高校への訪問を早期に行い、大学校について、進路担当教諭の理解を深める。	3 高校訪問数 ・学生募集 105 校 ・高校ガイダンス参加 10 校	3 高校訪問数 ・学生募集 148 校(R4 141 校) 通信制高校を訪問先に追加し、今年度も県庁(農業技術課)の協力を得て実施した。 ・高校ガイダンス 8校延べ 13 回 (R4 8校延べ 12 回) (庄原実業、西条農業、油木、吉田、沼南、松永、黒瀬、安芸南) ・9月に広島で開催された就農応援フェアに参加し、高校生4名、高校教諭 1 名の相談があった。 高校生4名のうち3名が入学予定である。	A	ほとんどの受験生はオープンキャンパス等に参加していることから、高校訪問は、なるべく6月のオープンキャンパス前に終え、興味のある生徒に先生から紹介してもらえよう働きかける。今後も引き続き、本庁の支援を得て実施する。	通信制高校を訪問先に加えたことは評価でき、続けて欲しい。本庁の支援はありがたいこと。オープンキャンパスの学校紹介を動画で行ってはどうか。
			情報の発信	4 ホームページ等の積極的な更新に努め、適時に大学校を紹介する。	4 ホームページ等の積極的情報更新 農大ニュース 20 件 農大 SNS 48 件	4 ホームページ等の積極的情報更新 ・農大ニュース 8 件 ・農大 SNS 116 件(R5.4.1～R6.2.28) 本校における SNS 記事の提出方法について、コースごとに説明会を実施し、学生からスムーズに記事が提出できるよう工夫した。 また、投稿する記事については、毎月開催している教務会議で、授業スケジュールを元に検討しており、計画的な更新に努めた。	A	農大ニュースについては、年度始めに主要行事の中から掲載対象を決定し、確実に更新していく。 SNS への記事投稿は、目標を大きく上回ることができた。新入生に対しても SNS 記事提出方法の周知を続け、継続的に記事を投稿していく。	SNS は誰が見ているか分析が必要ではないか。ハッシュタグの付け方の工夫をしてみてもいい。 農業への関心を広く持ってもらうため、植物や動物の画像に豆知識を加えて載せるのもよいのではないかな。
				5 オープンキャンパスのPRに努め、参加者数を増やす。	5 オープンキャンパス ・開催回数 2 回 ・参加者数 50 名 ・アンケートによる評価「参考になった」100%	5 オープンキャンパス ・開催回数 2回(R4 2 回) ・参加者数 55 名(R4 54 名) ・アンケートによる評価「参考になった」94%(R4 98%) ○学校見学会(進学相談+学校見学) ・開催回数 1 回 ・参加者数 22 名 ・アンケートによる評価「参考になった」100%	A	高校教員からオープンキャンパスを紹介してもらえるよう、高校訪問時に働きかける。 今年度の学校見学会は初めて農大祭開催中に実施した。開催時間や内容について、アンケートを参考に改善を図る。	高校1年生の早い段階から興味を持ってもらうには、やはり先生への働きかけが大切。 また、小中学生に農業への関心をもってもらうことも大事。農大祭での学校見学会では、ゲームや体験の要素を取り入れるなど、子どもも楽しめるような内容を検討してはどうか。

課題番号	課題	現状	評価項目	具体的方策	評価指標及び目標値	成果・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	関係者評価委員意見
2	進路指導の充実	<p>・農家出身の学生は入学生の中で 26% (農家比率: 親族に農業者を持つ者) であるが、経営基盤が十分でなく、卒業後すぐの自営就農率は卒業生のうち 11% である。(過去 3 年平均)</p> <p>・農業法人等への就職就農は 53% であり、一定の雇用の受け皿になっている。自営就農・研修を含めた就農率は 72% に達した。(過去 3 年平均)</p> <p>・県農林水産局の関係各課とともに就農就職促進会議を組織し、各行事等を通じて学生の進路決定支援や情報提供を受けている。</p> <p>・進路の方向が定まらず、決定が遅れる学生が見られる。</p>	進路別対応の実施	1 就農就職促進会議で関係機関と連携を進めながら、農業法人、農業関連企業のガイダンスを開催し、学生の意識を高める。	1 農業法人等雇用就農ガイダンスの開催 ・ガイダンス参加企業数 20 社 (2 回延べ数) ・行事を通じた採用内定者数 4 名	1 農業法人等雇用就農ガイダンスの開催 ・ガイダンス参加企業数 17 社 (2 回延べ数) (R4 11 社) ・行事を通じた採用内定者数 4 名 (R4 3 名) ガイダンス参加企業へ 4 名が応募し、内定を得た。	A	ガイダンスは、学生が農業経営体を知る重要な機会となっていることから、短期インターシップの取組と合わせ 1 年生のガイダンス参加を継続する。 また、関係機関と協力し、ガイダンス参加企業の増加を図る。	農大は実践主体で農家と同軸で動いているのがよくわかる。参加企業から、学生の将来が見える講話をしてもらいたい。
			進路の方向決定早期化	2 就農先として捉えた農家体験学習先を選定する。	2 就職希望農業法人等での研修 参加学生数 10 名 就農学生数 5 名	2 就職希望農業法人等での研修 参加学生数 6 名 就農学生数 2 名 6 名の学生が就職希望先 6 社で体験学習(先進経営体実習を含む)を行い、3 社に応募して 2 名が内定を得た。	C	体験学習がインターシップとしての役割を果たしており効果が大きい。体験学習先の選定にあたっては、専攻担当職員と連携を図りながら取り組む。	自分の人脈を作る上でも体験学習は貴重。農大は学校外の方からの協力支援が手厚い。
			3 個別面談を実施し、進路意向を把握するとともに、進路の早期決定への意識付けを図る。それぞれの学生に対し、個別の支援を継続的に行う。	3 個別面談 ・進路希望調査 各学年 2 回 ・一斉面談 各学年 2 回 ・採用試験エントリー支援 面接指導 30% (2 年生のうち指導した学生割合) 履歴書支援 70% (同上) ・個別のキャリアカウンセリングの実施 100% (同上) ・就農率 60% ・進路決定率 100%	3 個別面談 ・進路希望調査 1 年生 3 回 ・一斉面談 1 年生 1 回、2 年生 2 回 ・採用試験エントリー支援 面接指導 27% (2 年生のうち、指導した学生割合) 履歴書支援 47% (同上) ・個別のキャリアカウンセリングの実施 100% (同上) ・就農率 73% (R6.3.1 時点) (R4 80%) 就農率は目標を上回ったものの、昨年度より低下している。 ・進路決定率 93% (R6.3.1 時点) (R4 100%)	B	進路決定ゼミや短期インターンシップにより、1 年次から卒業後の進路について考えよう意識付けをする。 キャリア指導班担当職員による進路面談において丁寧に意向確認し、本人希望を尊重した進路指導を実施する。	農大の 2 年は、就農の覚悟を決める 2 年間となる。実習や体験学習などは覚悟を決める良い環境となっている。 企業への就職就農だけでなく、市町等の研修制度なども紹介し、産地の後継者育成にも取り組んでほしい。	

課題番号	課題	現状	評価項目	具体的方策	評価指標及び目標値	成果・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	関係者評価委員意見																																																								
3	学生の学力・資質の向上	<p>・資格取得へ向けたゼミを学生の希望による選択制で実施している。</p> <p>・進路先が求めている能力に対して、学生それぞれがレベルアップしていくことが求められている。</p> <p>・学生間の学力の差が大きく、主体的・意欲的に学習に取り組む学生がいる一方で、実習に必要な基礎的な計算力が不足している学生もいる。</p> <p>・生活態度は全体的に良くなっているが、細かい点の改善が必要である。</p>	資格取得の促進	1 学生のニーズに対応したゼミの開催により、資格取得を支援する。	<p>1 各資格の取得目標(過去3年間の合格率の平均)</p> <table border="1"> <tr><td>大型特殊免許</td><td>90%</td><td>大型特殊免許</td><td>100%</td></tr> <tr><td>けん引免許</td><td>88%</td><td>けん引免許</td><td>100%</td></tr> <tr><td>フォークリフト技能講習</td><td>100%</td><td>フォークリフト技能講習</td><td>100%</td></tr> <tr><td>危険物取扱者(乙4)</td><td>26%</td><td>危険物取扱者(乙4)</td><td>18%</td></tr> <tr><td>毒物劇物取扱者</td><td>21%</td><td>毒物劇物取扱者</td><td>25%</td></tr> <tr><td>小型車両系特別教育</td><td>100%</td><td>小型車両系特別教育</td><td>100%</td></tr> <tr><td>ガス溶接技能講習</td><td>100%</td><td>ガス溶接技能講習</td><td>100%</td></tr> <tr><td>アーク溶接特別教育</td><td>100%</td><td>アーク溶接特別教育</td><td>100%</td></tr> <tr><td>農業機械士</td><td>89%</td><td>農業機械士 (R6.2.21 試験実施)</td><td>—</td></tr> <tr><td>日本農業技術検定 2 級</td><td>24%</td><td>日本農業技術検定 2 級</td><td>18%</td></tr> <tr><td>農業簿記検定 3 級</td><td>27%</td><td>農業簿記検定 3 級</td><td>16%</td></tr> <tr><td>家畜商講習</td><td>100%</td><td>家畜商講習</td><td>100%</td></tr> <tr><td>園芸装飾 3 級</td><td>41%</td><td>園芸装飾 3 級</td><td>50%</td></tr> <tr><td>家畜人工授精師 (本年度対象外)</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	大型特殊免許	90%	大型特殊免許	100%	けん引免許	88%	けん引免許	100%	フォークリフト技能講習	100%	フォークリフト技能講習	100%	危険物取扱者(乙4)	26%	危険物取扱者(乙4)	18%	毒物劇物取扱者	21%	毒物劇物取扱者	25%	小型車両系特別教育	100%	小型車両系特別教育	100%	ガス溶接技能講習	100%	ガス溶接技能講習	100%	アーク溶接特別教育	100%	アーク溶接特別教育	100%	農業機械士	89%	農業機械士 (R6.2.21 試験実施)	—	日本農業技術検定 2 級	24%	日本農業技術検定 2 級	18%	農業簿記検定 3 級	27%	農業簿記検定 3 級	16%	家畜商講習	100%	家畜商講習	100%	園芸装飾 3 級	41%	園芸装飾 3 級	50%	家畜人工授精師 (本年度対象外)				1 各資格取得実績	C	<p>大型特殊、けん引は目標を達成した。毒劇物の合格率は、目標を上回ったが、危険物(乙4)、日本農業技術検定、(2級)、農業簿記検定(3級)はいずれも未達成であった。</p> <p>筆記系の資格については、取得意義と目的を明確にするとともに、対策を行い、合格率の向上を図る。</p> <p>実技系の資格については、伐採等の業務(チェーンソー)特別教育、狩猟免許(罟猟)について検討する。</p>	<p>経営主を目指すなら、農業簿記の知識は必須。合格率向上に期待する。昨年度の意見にもあったが狩猟免許(罟猟)取得は、中山間地では必須となってくるので引き続き検討してほしい。</p> <p>各種試験の申込みは農大で一括してやってくれており、学生同士で学び合い、合格率を高めてほしい。</p>
			大型特殊免許	90%	大型特殊免許	100%																																																											
			けん引免許	88%	けん引免許	100%																																																											
フォークリフト技能講習	100%	フォークリフト技能講習	100%																																																														
危険物取扱者(乙4)	26%	危険物取扱者(乙4)	18%																																																														
毒物劇物取扱者	21%	毒物劇物取扱者	25%																																																														
小型車両系特別教育	100%	小型車両系特別教育	100%																																																														
ガス溶接技能講習	100%	ガス溶接技能講習	100%																																																														
アーク溶接特別教育	100%	アーク溶接特別教育	100%																																																														
農業機械士	89%	農業機械士 (R6.2.21 試験実施)	—																																																														
日本農業技術検定 2 級	24%	日本農業技術検定 2 級	18%																																																														
農業簿記検定 3 級	27%	農業簿記検定 3 級	16%																																																														
家畜商講習	100%	家畜商講習	100%																																																														
園芸装飾 3 級	41%	園芸装飾 3 級	50%																																																														
家畜人工授精師 (本年度対象外)																																																																	
主体性・規律性の向上	2 学生が学習に意欲を持って取り組めるようカリキュラムを進める。	2 単位取得率 97.1%(過去3年平均)	2 単位取得率 (97.0%見込み)	A	<p>1年生については、令和5年度の成績をもとに農力獲得チャートを作成し、新学期の個別面談により、2年時の学習意欲向上につなげる。</p>																																																												
生活指導監と連携した指導により、学生の主体的な取組を促す。	3 寮生活の改善状況 ・生活指導監による生活指導と職員による指導を共有する ・毎木曜朝生活指導の場を設ける ・寮委員の主体的な活動による毎月曜フロア掃除、毎日の玄関・風呂掃除の確実な実施(当番表の作成と当番交替の調整) ・生活指導監講話の開催 2回	3 寮生活での改善状況 ・毎木曜朝の生活指導の場を新たに設けた。 ・「朝のつどい」(毎火曜)と毎木曜朝の生活指導を確認するファイルを作成し、情報を共有した。 ・「毎月曜フロア掃除」は丁寧に実施されていると生活指導監より報告を受けている。生活委員による当番表の作成はできている。当番交替は、直前での交替など、自覚が足りない学生もいた。 ・生活指導監講話2回実施	3 寮生活での改善状況 ・毎木曜朝の生活指導の場を新たに設けた。 ・「朝のつどい」(毎火曜)と毎木曜朝の生活指導を確認するファイルを作成し、情報を共有した。 ・「毎月曜フロア掃除」は丁寧に実施されていると生活指導監より報告を受けている。生活委員による当番表の作成はできている。当番交替は、直前での交替など、自覚が足りない学生もいた。 ・生活指導監講話2回実施	B	<p>寮での共同生活を通じ、社会人として必要な常識(あいさつ励行、時間厳守、掃除の徹底など)を身に付けるため、生活指導監と先生方の連携を意識して指導にあたる。</p> <p>寮役員の定期的な話し合いを促す。</p>	<p>学生の主体性と規律は相反するもの。主体性が発揮できる指導方法を構築してほしい。</p> <p>農大内だけでなく、地域の方々との交流を通じて学ぶこともある。</p> <p>寮の食堂も、農大産の野菜などを使ってPRしてもよい。</p>																																																											

課題番号	課題	現状	評価項目	具体的方策	評価指標及び目標値	成果・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	関係者評価委員意見
4	カリキュラムの改善	<p>・平成28年度から、独立就農を希望する学生を支援する農業経営体で長期研修を行う就農実践専攻を設置し、就農を促進する。</p> <p>・令和元年度から、実際の経営を想定し、経営・労務管理の感覚を養うことを目的とした模擬経営実習を取り入れた。</p> <p>・学生が自ら目的・意思をもって学習するアクティブラーニング手法を講義に取り入れるべく模索している。</p> <p>・令和3年から、スマート農業機器の導入や通信機器の整備を行っている。</p>	新たな専攻等設置と新カリキュラムの策定	1 就農実践専攻の円滑な運営	1 就農実践専攻学生の確保 1年生 1名	1 就農実践専攻学生の確保 1年生 0名	B	就農促進会議などと連携した(新たな)魅力的な受入経営体の探索・確保が必要である。	
				学生への周知, 意向確認, 受入経営体との調整等スケジュールに基づいた実施。 運営上の問題を整理し、解決策を検討する。	就農実践専攻学生の雇用 就農実現 1名	就農実践専攻学生の雇用 先進経営体実習先への雇用就農実現 1名			
				2 模擬経営実習の円滑な運営	2 模擬経営実習学生の確保 1年生 1名	2 模擬経営実習学生の確保 1年生 0名	D	社会人経験者など就農意欲と能力の高い学生対象に、経営計画作成の事前説明なども併せて実施する。	
				学生への周知, 意向確認。 運用上の課題を整理し、解決策を検討する。		6月の説明会を実施し、学生への周知を図った。			
3 アクティブラーニング手法を重視した講義づくり	3 R4 にシラバス改定した科目の講義づくり 8科目	3 R4 にシラバスを改定した科目の講義づくり 8科目	A	これらの手法を継続させながら、学生の意欲を引き出す、講義づくりを進める。					
外部機関の協力を得て、「講義構成書」を作成、グループワークや探求活動を取り入れた講義づくりをすすめる。		<ul style="list-style-type: none"> ・GAP 実践論 ・植物生理 ・施設園芸論 ・果樹栽培論 I ・果樹栽培論 II ・病害虫と雑草 I ・病害虫と雑草 II ・実験計画法 外部機関から、外部講師による実践的な講義、グループディスカッションの進め方、動画撮影とその編集方法などの講義支援を受けた。							
4 スマート農業教育の推進	4 スマート農業機器を活用した卒業論文テーマ数 2	4 スマート農業機器を活用した卒業論文テーマ数 1テーマ	D	卒業論文テーマに取り上げられていない学生の取組を把握し評価の対象とするため、指標を「実習でスマート機器に、実際に触れ、活用する学生数」とする。					
講義・実習を通じ、導入したスマート機器等に触れる機会を増やす。学生の関心を高め、機器を活用した卒業論文テーマの立ち上げを促す。		おんどり webstrage を活用した土壌 pF 値のモニタリングと灌水制御							
5	職員のスキルアップ	・職員が授業や生活指導上の問題に効果的・効率的に対応できるようスキルアップのための取り組みが必要である。	研修への参加	1 各種研修への積極的な参加を呼び掛ける。	1 県内外で開催される研修への参加者数 9名	1 研修への参加者 ・探求型学習研修(3回)のべ26名 ・データ活用研修(3回)のべ20名 ・県外事例視察研修 1名 ・JGAP 指導員養成研修 1名 ・職業紹介責任者講習 1名 ・教育研究会 1名 ・西日本ブロック部門別研修(畜産)1名 ・中四国ブロック教務担当者会議(web)1名	A	西日本ブロック研修など、農大間の情報交換や教育手法の向上に有意義であり、教育委員会の研修も含めて、積極的な研修参加を進めていく。	農大の先生は、教員免許は必要ないが、実践の経験値が高い。そこはPRできるところではないか。 農業高校の新任者研修は人数が少ない。農大を研修場所にするとか農大の先生と一緒に研修する場を設定出来たらお互いに良い効果を生むのではないか。 指導農業士会理事と先生方が話し合う機会を設けては。
2 教育委員会の新任研修へ参加 2名	2 教育委員会の新任研修へ参加 2名	2 教育委員会の新任研修へ参加 2名							